

都市フォーラム19号

東北都市学会通信（通巻19号）

2008年8月11日

<http://www.senkyo.co.jp/tau/index.html>

目次

- ・東北都市学会 2008 年度大会のお知らせ
- ・2008 年度大会発表等の申込
- ・2008 年度第 1 回理事会の開催
- ・研究専門委員会の開催
- ・『研究年報』第 7・8 号の発行
- ・会員の状況
- ・2008 年度会費納入のお願い
- ・事務局から

13:30 開会

13:40 基調講演 「いわきの歴史とまちづくり」

講演者： 新妻英正氏（いわき市商工観光部 商工労政課長）

14:10 パネルディスカッション

『にぎわい創出のまちづくり～いわきのまちづくりにむけて～』

17:00 閉会

東北都市学会 2008 年度大会のお知らせ

東北都市学会 2008 年度大会は、9 月 27 日（土）・28 日（日）に、いわき市で開催することとなりました。27 日は公開シンポジウム「にぎわい創出のまちづくり」を開催します。28 日は会員の研究発表、会員会を開催します。27 日の会場は、いわき市生涯学習プラザ、30 日は LATOV 6 階 産業創造館です。

会員の皆さんのご参加をお待ちしています。大会要項は次のとおりです。自由研究発表への申込もお待ちしています。

[2008 年度大会開催要項]

日程 9 月 27 日（土）～28 日（日）

会場 29 日 いわき市生涯学習プラザ

30 日 LATOV 6 階 産業創造館

[プログラム]

27 日（土）

13:30～17:00 公開シンポジウム

17:30～19:30 交流会

28 日（日）

10:30～12:00 研究発表 1

12:00～12:30 会員会

12:30～13:30 昼休み

13:30～16:30 研究発表 2

[公開シンポジウム]

テーマ にぎわい創出のまちづくり

2008 年度大会研究発表等の申し込み

2008 年度大会における自由報告の発表を募集いたします。以下の発表申し込み要領、発表要旨作成要領ならびに発表要領をご覧の上、同封の発表申し込みハガキに必要事項を記入し、学会事務局にお送り下さい。

[発表申し込み要領]

- ・発表の申し込みは同封のハガキを使用して下さい。
- ・発表申し込みの締切り日は 8 月 29 日です（必着）。
- ・共同発表の場合は、すべての共同者の名前を書き、発表者には○印をつけて下さい。
- ・共同発表の場合、発表者は 4 人以内とします。
- ・取り消しの必要が生じた場合は、直ちに事務局に連絡して下さい。

[発表要旨作成要領]

- ・発表申し込み用紙を受領後、事務局では発表数、部会開設時間等を考慮したプログラム（案）を作成した上で、後日、発表申込者に発表要旨作成の依頼をします。
- ・発表要旨は原則としてワープロを使用し所定の書式で A 4 用紙 2 枚に収めて下さい。

共同発表の場合は4枚あるいは6枚に納めて下さい。

- ・所定の書式は発表要旨作成依頼の時に通知します。
- ・発表要旨は原稿をもとにダイレクト印刷をおこないますので完全原稿として提出して下さい。
- ・発表要旨の送付締切り日は9月12日です。

[発表要領]

- ・発表内容は、都市に関する研究報告、調査研究報告、都市施策・まちづくり・地域づくり等の実践報告を主とします。
- ・個人発表の場合は発表時間 15 分、質疑応答 5 分とします (合計 20 分)。
- ・共同発表の場合は発表者の人数に拘わらず発表時間 30 分、質疑応答 10 分とします (合計 40 分)。
- ・いずれも時間を厳守して下さい。
- ・発表の際には、発表レジュメあるいは発表資料をできるだけ用意して下さい。

2008 年度第 1 回理事会の開催

2008 年度の第 1 回理事会が 7 月 12 に東北文化学園大学医療福祉学部セミナー室で開催されました。次の議事が審議されました。

1. 平成 19 年度事業報告
2. 平成 19 年度決算 (案)
3. 平成 20 年度事業計画 (案)
4. 平成 20 年度予算 (案)
5. 本年度大会について
6. 研究例会 Colloque について
7. 会員の状況
8. 会長からの提案について
 - 1) 学会会費の改定
2009 年度会費から現行会費を 1,000 円引き下げることを会員会に提案する。
 - 2) 会誌の一本化および編集方法
2009 年度から『研究年報』と『仙台都市研究』を一本化する。
編集方法については 4) の活性化とあわせて検討する。
 - 3) 理事会の開催方法および旅費
現行どおりとする。
 - 4) 学会活動活性化検討委員会の設置

『研究年報』の編集方法等とあわせて今後検討する。

5) 事務局移転

現事務局維持が困難な状況にあり、2009 年度から事務局を移転する。

事務局は、福島工業高等専門学校 (芥川会員、松本会員、高橋会員) を候補とする。

9. その他

理事会の議事録は、ホームページに掲載しています。

<http://www.senkyo.co.jp/tau/index.html>

研究専門委員会の開催

5 月 30 日に研究専門委員会が開催されました。2008 年度大会開催地の松本会員から提出された公開シンポジウムのテーマ、趣旨案について熱心に話し合いが行われ、検討結果をふまえた案を岩動専門委員会委員長と松本会員が作成することとなりました。

『研究年報』第 7・8 号の発行

研究年報第 7・8 号の合併号が、5 月 30 日に発行されました。編集が大幅に遅れ、会員の皆さまにはご迷惑をおかけしました。6 月に発送致しましたが、未だ届いていない場合には事務局にご連絡下さい。

なお、自由投稿論文は随時受け付けています。奮ってご応募下さるようお願いいたします。「論文」、「研究ノート」、「フィールドノート」、「都市情報」、「書評」、「文献紹介」すべてのジャンルで受け付けます。研究年報各号に掲載しております[研究年報投稿規程]に従って原稿を作成のうえ、東北都市学会事務局 研究年報編集委員会宛にお送りください。

会員の状況

一般個人：82 一般学生：6 団体：7

(日本都市学会会員 95)

地域個人：21 地域学生：2

合計会員数 118

[退会] 一般：2 名 地域：4 名

[除籍] 6 名

2008 年度会費納入のお願い

2008 年度の会費納入をお願いします。学会の活動は、会費によって支えられています。会員の皆様の迅速な納入をお願いいたします。うっかり滞納をされている会員もおられるかと思えます。納入にご協力ください。

なお、会費請求書を同封いたしましたので、郵便振替あるいは銀行振込をご利用ください。会費は次のとおりです。

一般個人会員

東北都市学会費 6,000 円＋日本都市学会費 4,000 円＝10,000 円

地域個人会員

東北都市学会費 6,000 円

一般学生会員

東北都市学会費 4,000 円＋日本都市学会費 4,000 円＝ 8,000 円

地域学生会員

東北都市学会費 4,000 円

団体会員

東北都市学会費 10,000 円×口数＋日本都市学会費 4,000 円

納入方法

郵便振替 02250-2-42389 東北都市学会
郵便貯金口座 18140-27225001 東北都市学会
銀行口座 七十七銀行 仙台市役所支店
(普)5253861 東北都市学会 会長 佐々木公明

東北都市学会役員 (2006. 11～2008. 10)

会長	日野 正輝 (支部会長理事)
理事	北原 啓司 (青森)
理事	石沢 真貴 (秋田)
理事	佐藤 慎也 (山形)
理事	吉野 英岐 (岩手・機関誌編集担当)
理事	千葉 昭彦 (宮城・渉外担当)
理事	初沢 敏生 (福島)
理事	吉原 直樹 (支部選出理事)
理事	岩動志乃夫 (研究活動担当)
理事	高橋 英博 (会計担当)
理事	佐藤 信夫
理事	佐藤 直由 (庶務担当)
理事	秋田看護福祉大学地域総合研究所 (石川雅典)
理事	仙台市(担企画市民局政策企画課)

理事	仙台エリアマーク事業協同組合
監事	阿見 孝雄・高橋早苗
顧問	古田 義弘

事務局から

▼2008 年度大会は 9 月 27 日・28 日に開催されます。多数の会員の参加をお願いいたします。

▼研究年報が発行されました。大変遅れてしまい、申し訳ありません。会員の皆様のご寛容をお願いする次第です。学会の重要な事業である学会誌の発行は、会員のアイデンティティのよりどころです。新事務局体制の下で継続的に発行されるよう引継ぎを行いたいと思います。

▼会費納入案内において、会費振込先は前会長名のままとしています。来年度事務局が移転する予定ですので、あわせて加入者等の変更手続きを進めたいと思います。それまではこのままご記入下さるようお願いいたします。

お願い

勤務先、連絡先住所、電話番号、メールアドレス等に変更がありましたら、事務局まで Fax、E-mail でお知らせくださるようお願いいたします。

都市フォーラム 19 号

東北都市学会通信

2008 年 (平成 20 年) 8 月 11 日発行

編集発行 東北都市学会事務局

〒981-8551 仙台市青葉区国見 6-45-1

東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科
佐藤直由研究室気付

Tel&Fax 022-233-3987

E-mail snao@hss.tbgu.ac.jp

<http://www.senkyo.co.jp/tau/index.html>

2008 年度東北都市学会 いわき大会
大会・シンポジウムのテーマ解題
「にぎわい創出のまちづくり」

「平成の大合併」によって広範囲な市町村が生み出されている。いわき市は、昭和 41 (1966) 年 10 月 1 日の平市、磐城市、勿来市、常磐市、内郷市等による合併によって生まれ、現在に至っている。この合併は県を中心となりつつある郡山市が行ったような「大が小を飲む」ような合併（安積町等と合併）ではなく、同じような規模を持ったもの同士が対等に合併している。

昭和 40 (1965) 年における人口を見ると、平市 (7.1 万人)、磐城市 (6.5 万人)、勿来市 (4.7 万人)、常磐市 (4.1 万人)、内郷市 (3.6 万人) であり、更に磐城市が小名浜港と臨海工業地帯、常磐市は温泉、勿来市は進出企業による税収増加基調にあるなど、各市ともに規模や特長を持っていた。特に磐城市は新産業都市指定の原動力になったという自負を持っていたために、昭和 41 年での合併時にも市庁の設置場所（平市内で検討）や市名も複雑な経緯で決定している。

本来ならいわき駅（旧平駅）が中心となるどころだが、旧各市にそれぞれ支庁がおかれ、各々の生活圏が形成されている。そのために、市の玄関となるいわき駅前、同じ 30 万都市の郡山と比べると活況からほど遠いのが現状であり、商業統計を見ても、1 店舗当たりの売上は平地区のみ落ち込みが大きい。

平地区をいわきの中心と見なそうとする動きもないことはない。一つは市制施行 15 周年を記念して毎年 8 月に行われている「いわきおどり」である。これはじゃんがら念仏おどり、小名浜天狗おどり、常磐やっぺ踊り、常磐炭坑節など、各地で行われた踊りを継承しながらも、市民共通のものとして創設し、いわき駅前で開催されているものである。市の施策についても同様である。市は合併時以来、「バランス重視の開発」を行っていたが、平成 10 (1998) 年『いわき地域振興ビジョン』、平成 11 (1999) 年『いわき市中心市街地まちづくり基本計画』において、分散型の発展から平中心部をいわきの中心とする政策に転換している。昨秋行われた『ま

ちなかの賑わい創出を目指して～歩いて暮らせるまちづくり（いわき地区）社会実験を例に）もこれらの延長線上にあるといえる。

このように複数の核を持ちつつ、平地区の中心地形成を目指しているのが、現在のいわき市といえる。自生的に形成されてきた複数の核を保ちつつも、その中の一つ―平地区―を施策によって中心にしようとするのである。

いわき市はどのような市を形成していくべきなのか。

- ① 平地区を中心とする
- ② 平、小名浜などと、複数の核を持たせる
- ③ ①と②を両立させる

現在のいわき市の施策は③の立場ではないだろうか。これはいわば、平地区を中心としつつも郊外の拠点（小名浜、湯本など）をつくるという、中心と周縁の「棲み分け／機能分担」を図る試みである。住民や来街者からの視点では例えば、平＝情報の発信地、小名浜＝食事と買い物、湯本＝温泉と観光といった「主な」機能を持たせること、そして各地区で文化などによって生み出される自律性を保ちつつ、機能の相互依存性と補完性をつくり出すことで、いわき市全体に住民や来街者のまち巡りを推進させていくことである。こうしたことを施策によってどうやって実現させるかが、いわき市の課題でもあるといえる。

合併によって生まれた新たな中心地のにぎわい創出を目指しつつ、従来ある複数の核の持続的発展も目指すことは、近年の「平成の大合併」による対等合併によって生まれた市町にも共通の話題ではないだろうか。本大会ではこのような複数の核を持ついわき市が、どのような市を形成していくべきなのか。その方向性を検討し、上記問題意識に関する研究成果の発表と活発な議論が期待されるところである。